

鳩トビ是以鳩トビ為鼻之別名、要之諸書所說多混殺不明、

〔類聚名義抄九〕鳩トビ、休留二音、鶉音欺、鶉鶉、鶉鶉、鶉芳于反、

〔伊呂波字類抄動物〕鶉イヒトリ、

〔日本書紀二十四〕三年三月、休留伊呂波音、茅也產于於豐浦大臣大津宅倉、

〔日本書紀二十九〕十年八月壬午、伊勢國貢白茅イヒトリ、

〔倭名類聚抄十八〕鶉鳥、萬葉集云、鶉鳥、其讀與不

〔類聚名義抄九〕鶉鳥、ヲ、コ、ドリ

〔字鏡集九〕鶉鳥、ヲ、コ、ドリ

〔饅頭屋本節用集生類〕鶉鳥、ヲ、コ、ドリ

〔八雲御抄三下〕鶉鳥、マとハにぬれてと云、人まつよひのなどもよむ春物也、古歌にねざ

めのこゑはよぶこ鳥、よぶかきこゑなどいへり、又なくとも、又たよふともいふ、

〔徒然草下〕よぶこ鳥は、春の物なりとばかりいひて、いかなる鳥共さだかにしるせるものなし、あ

る眞言書の中に、よぶこ鳥なく時招魂の法をばおこなふ次第あり、是は鶉なり、萬葉集の長歌に、

霞たつながき春日のなどつゞけたり、鶉鳥も喚子鳥のことざまに通てきこゆ、

〔萬葉考別記一〕呼兒鳥

この鳥は集にもはら春夏よめり、そが中に卷十二に坂上郎女の、世の常に聞ば苦しき喚子鳥音
なつかしき時には成ぬ、とよめるは、三月一日佐保宅にてよめるとしるしつげに山の木すゑや
うやう青みだち霞のけはひもたゞならぬに、これが物ふかく鳴たるは、なつかしくもあはれに
もものに似ずおぼゆ、それより五月雨る、頃までも、ことにあはれと聞ゆめり、さて鳴こゑもの
をよぶに似たれば、よぶこ鳥といひ、又其こゑかほうくと聞ゆれば、集には容鳥ともよみたり、